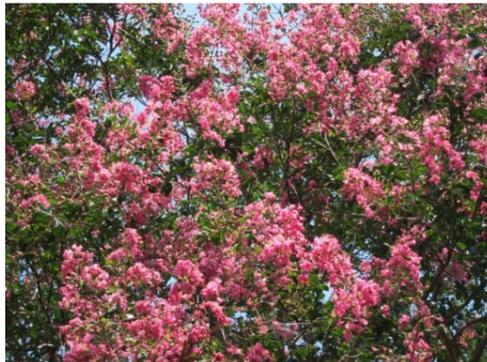


～今月の花木～



サルズベリ 猿滑 百日紅

ミソハギ科・落葉高木・中国原産

花期が長いので百日紅という別名もあり、10月くらいまで咲いていることが多い木である。

❖ 寿命とは：
一般的には、生命が生きている時間の長さ、生命の存続する期間を指します。「—を延ばす—」が縮まる「平均—」
また、ものの耐用年数を指す場合もあります。「このエアコンはもう—だ」「この電池は—だ」
人間を含めた動物では100歳以上生きるものは稀ですが、植物では樹木などでは優に100年以上生き生きするものが、多数あります。



うまく無事に育てば、樹木は長命なものが多い(ケヤキ)

植物の寿命

人間などの動物と比べると、樹木など植物は寿命が長いといわれ、「樹齢二〇〇〇年以上の屋久杉」などもあります。花壇に植えるパンジーなどの一年草の草花のように、一年で枯れてしまうものもあります。植物の寿命のほか、動物との寿命の比較なども合わせて、紹介いたします。

ソメイヨシノ 60年寿命説



樹齢が60年を超えたころから、このサクラは枯死が目立ち始めるため、このような説がいられています。しかし、青森県の弘前公園では樹齢120年を超えるものもあり、60年というのは、ソメイヨシノがもっている決まった寿命とは言いきれません。

何故60年程度で衰弱したり枯れたりしてしまうのか…

- ・成長が速いから、死ぬのも早い
- ・花がきれいで所構わず植えられ、花見客による根元の踏みつけや根元にまで迫る舗装などによる衰弱
- ・病害虫に対する抵抗性が低い…など諸説様々いられています。

この樹種のもつ脆弱性もありますが、植えられている環境や管理方法の改善により、長生きさせることは可能です。

植物(樹木)の寿命、生き方など…

動物など生命個体の死=寿命という考え方に基くと、植物でも枯れたとき(地上部のみでなく、根系も全て)、=寿命(死)と考えるのは自然なことだと思います。

しかし、一年生の草花など繁殖したら枯死する有限の寿命をもつ種は別として、樹木には一定の寿命がなく、無限に生きることが出来るという考え方があります。樹種にもよりますが、何千年も生きる樹木は、環境さえよければ無限に生きられるという考え方があります。また、挿し木などのくり返しなどにより、同じ遺伝形質をもったもの(クローン)は、複製が永遠に続くので寿命は無限であるというような考え方があります。

ちなみに、このような考え方には、賛否両論があります。



枯木(樹木の死)



挿し木による、同一遺伝形質をもった植物の複製・継続

～樹木の年齢の調べ方～

年輪の数を数えると樹齢が分かるという昔から言われていますが、この方法は分かりやすく信頼性も高い方法です。また、樹木の中心分の材を少しとって調べる、放射線炭素による樹齢の推定も行われています。

動物は体の一部の器官(たとえば臓器など)が老化したり死んだりすると、その個体の老化や死につながる事が多い反面、樹木では一つの器官(葉など)の老化や死は、個体の老化や死につながる事はあまりありません。

樹木の細胞はその個体を構成している全ての細胞が全部生きている訳ではなく、大木などは生命維持に必要な一部の細胞を除いては、樹木の中心部などの多くは死んでいる細胞で構成されています。たとえ死んでいる細胞でも、その樹体を構成し支えている役目があります。

いわば樹木などの植物は、死と生の部分が共存して一つの個体を形成しています。

生き物の寿命

一部のデータは信ぴょう性の低いものもありますが、「平均寿命」を青色、「最高寿命」を赤色にて表示しました。最高寿命は、生理的寿命とか、極限寿命とも、いわれます。

寿命	動物など	植 物
1年	ミジンコ 約1ヶ月 カブトムシ 約1年 スズメ 約2~3年	多くの一年草、野菜など 多くの二年草
10年	カラス 約6~8年 ブンチョウ 約7年 イヌ 約12年 ネコ 約12~18年 ウシ 約10~20年	タラノキ 約10年 ジンチョウゲ 約20~30年
50年	金魚 約20年 ウマ 約20~40年 ゾウ 約60年 人間(日本人) 約80年	カキ、モモ、クリ 約50年 シラカバ 約70年
100年	ニホンザル 約20~30年 ネコ 36年 シロナガスクジラ 110年 人間 約120年	ポプラ 約70~100年 トチノキ 約150~200年 コナラ 約80年 ミズキ 約80年
500年	マッコウクジラ 約70年 ガラゴソヅカメ 175年	多くの森の木 約200~300年 スダジイ 約300年 ブナ(長野) 435年
1000年以上		マツ 約500~1000年 イチョウ、ケヤキ 約800年以上 シダレザクラ 約1000年以上 ヒノキ(屋久島) 1065年 スギ 約1000~1600年 大王杉(屋久島) 約3000年 イブキヨウマツ(USA) 4844年

うろうろして、ご飯を食べて行かないと死んでしまう寿命の短い動物。自ら移動することなく、ひとつの場所で成長し、環境が良ければ長生きする植物。



無事に起せた火は、トーチに移して記念撮影の後、会場の一か所に集められました。



最終的に、火種はどの様に持ち帰るのか不思議でしたが、白金カイロ(ハクキンカイロ)を使用していました。



火起こしは、まず大人が見本を見せます。後は子供たちで行います。煙は割と早く出ますが、火種にするのに苦労します。



「ゆりーと」も応援に来ました。火の近くには焼き鳥になりそうで近づけませんでした。

原始人大会とゆりーと

意味不明な表題ですが、会社近くの小学校にて、夏休みに子供たちを対象とした「原始人大会」というものが行われており、今年で31年目を数え、弊社でも例年お手伝いさせていただいております。

主な内容は、近所の竹藪から竹を切りだし、筏を作って遊んだり、竹で食事の際の食器を作ったりします。また、火起こし器(舞hiri式)で火を起し、食事を作ります。最後にきもだめしをして解散というのが例年の流れですが、今年はいつもと様子が違いました。

スポーツ祭東京2013(第68回国民体育大会・第13回障害者スポーツ大会)が今秋開催され、その炬火(きよか…五輪という聖火)の火種として「原始人大会」で起こした火種が東久留米市で採火する火に選ばれました。都内各区市町村から火種を寄せ集めるそうです。大会のゆるきゃら、「ゆりーと」も応援に駆けつけました。

子供たちはいくつかの村(グループ)に分かれて一日を過ごし、例年仲の良い村が一番早く火を起すようです。全てのグループで無事に火を起すことができ、その火を全て集めたものを東久留米市の火種として、市役所の人を持って帰りました。



プールでの筏あそび



竹で筏の骨組みを作ります